

# じっくり心をこめて スロー フード



## 《今月のご紹介》

菅 加津子 さん  
(小和田)



### 鯖のマリネ

鯖のたんぱく質と、酢のアミノ酸の効果で  
栄養バランスもよく、サッパリしておいしく  
いただけるとおもいます。

#### 材 料 (5人分)

・鯖	大1尾	・酢	120 cc
・玉ねぎ	大1個	・砂糖	70 g
・キュウリ	1本	・七味とうがらし	少々
・ミニトマト	5個	・片栗粉	適量
・みかんの缶詰	1缶	・揚げ油	適量
・しょうゆ	120 cc		

#### 作り方

鯖を3枚おろしにして食べやすい大きさに切る。  
片栗粉を付けて油でカラッと揚げる。  
しょうゆ、砂糖、酢をなべに入れて、沸騰したら玉ねぎ  
のうす切り、七味とうがらしを入れる。  
揚げた鯖に のタレとからめて、深めの皿に盛り付ける。  
きゅうりのせん切り、みかんの缶詰(汁ごと)、ミニト  
マトで飾りつける。

\*鯖でなくても、アジ、手羽肉、肉だんご等でも良い。

## せきかわ文芸

### 俳句

スタンドを引き寄せ夜なべつゞけをり  
秋風や人又逝きし掲示板

斎藤 福一  
(東京都品川区)

### 川柳

行水の昔を忍びて思え出す  
あつい夏あつと言ふまに秋が来る

加藤五郎平  
(鮎谷)

オナーがたかが選手に脱帽し  
お遍路さん菅氏のあとにニセが増え

松田 栄一  
(下関)

兄弟で一億円をもてあまし

高橋喜代治  
(下関)

感謝祭秋の味覚をテニコ盛り  
傘寿すぎ悠悠自適ままならず  
アルバムに俺れの半生残つてた

### 短歌

秋日和コスモスゆれて亡き夫の墓地行く  
道にとんぼ飛び交う

久保田秀子  
(神奈川県横浜市)

### かたばみ短歌会作品

吾を見詰む眼の美しき少年の真幸くあれと両  
頬を撫す

渡辺千恵子

膝に載せ御膳を拭う亡き母の姿が浮ぶ厨の隅  
に

小池 啓子

迎え火に幼は真似て手を合わす微笑むごとく  
炎は揺れて

須貝 恵美

# 近・現代 関川郷の人びと

執筆者：佐藤貞治（「せきかわ歴史とみちの館」館長）

## 伊藤貞次



広島市長を務めた伊藤貞次は明治十一年一月十七日関谷村下関の第九代伊藤半十郎の

孫として出生。初代半十郎は寛文四年に没し、子孫は代々半十郎を襲名、屋敷は又兵衛の下隣りにあつて屋号はカツパ屋を称し各種商品の問屋を営み、繁昌していた。

九代半十郎の三男東蔵は明治二十五年、若くして信州で病死した。子供の貞次と妹は母親に伴われて、母親の実家（現、上関渡辺貞祐家）に帰り、養育された。

貞次は十七歳で青雲の志を抱いて上京、苦学して早稲田大学専門部法律科を卒業した。大学卒業後官吏となり、富山県勸業課長、宮城県勸業課長、山形県商工課長兼林務課長を経て北海道総務部長をつとめた。

大正十五年広島市助役に就任。この時、新潟市長の話もあつたが「故郷へ錦

を飾るのもよいが、大きな都市の助役に魅力がある」と広島行きを選んだという。

そして、昭和五年五月十六日、第十五代広島市長に就任。軍都広島市の発展に尽力し、昭和九年五月十五日、任期満了

で退職した。なお、退職記念に市から贈られた壺が渡辺貞祐家に保存されている。

市長を辞めてから大連へ渡り、六年ほど滞在して東京武蔵野の吉祥寺北町へ落ち着いた。

昭和十八年九月十五日、脳出血のため六十六歳で没した。西武新宿線沼袋駅の近くにある真言宗秘蔵院に眠っている。

読書家で読むのが大変早く、博学であつたという。また、キングという雑誌の「郷里の偉人」欄に取り上げられ、「関谷村は人情味があり住みよいところである。しかし他人のことをとやかく云うことを改めなければ発展しないだろう」と述べている。

貞次のひ孫にキャンデーズの人気歌手、伊藤蘭がいる。現在は女優として活躍し、NHK朝の連続テレビ小説「こころ」に出演、うなぎ屋のおかみを演じた。

### 伊藤家の系図

初代 九代 十代半十郎 十一代半十郎  
伊藤半十郎（健五郎）（關）（北海道）

三男 東蔵 貞次 大郎 英邦 路似  
（關）（東京）

### 参考文献

中国新聞夕刊（昭和五四・三・二〇）

## せきかわ文芸

### 関川俳句の会作品

なすび漬色よくなれと嫁揉みぬ

渡辺しづい

腰曲げてボール追い掛く運動会

小沢 ヨシ

亡き母の齢となりて草むしる

五十嵐貞子

露天風呂はらりと紅葉湯を浴びき

青木 慶一

柿の実の色付く日和授かりて

南 セツ

風と来て風とまた行く秋の蝶

渋谷 くに

仏前の香煙揺らぐ彼岸花

米野 セツ

吹く風に破れ芭蕉が季を知らせ

佐藤 ノブ

### せきかわ川柳会作品「主張」「近い」「雑詠」

退院も近いらしいぞ飯の味

渡辺しづい

九条の主張に平和玩味する

高橋喜代治

花咲かず退屈同士政治論

佐藤 ノブ

まつ母の主張聞いてる里帰り

平田 千恵

スープ冷めぬ距離と言われて嫁がくる

南 セツ

朝露の野菜が届く垣根越し

本間 イミ